

* 岡山天体物理観測所 25 周年記念切符入手

国立天文台岡山天体物理観測所は、1960 年 10 月 19 日、東京大学東京天文台岡山天体物理観測所として開設された。この記念切符の裏面の説明にもあるように非常に長たらしい名称なのであった。最近のアーカイブ室新聞に、国立天文台（東京天文台、緯度観測などを含む）に関連した記念切手類、またそれらが登場する小説、天文学に関連したテレホンカード類の収集も始めたという記事を書いたところ、いくつかの情報が寄せられている。その中に、今回は「標石グループ」の飯島氏から表記の記念切符 3 枚を持っているので寄贈すると送っていただいた。筆者は 1961 年～1966 年の 5 年間、岡山天体物理観測勤務であったが、このような記念切符が発行されたことは知らなかった。この記念切符は岡山天体物理観測所がある鴨方町合併 30 周年記念を兼ねているが、この記念切符発行は昭和 60 年（1985 年）10 月 19 日となっているから、岡山天体物理観測所 25 周年記念日に重きが置かれているように思われる。まず写真 1 は、記念切符の袋の表である。



写真 1 記念入場券の袋の表

切符は 3 枚組で、1 枚目は岡山天体物理観測所 188cm 望遠鏡ドームと倉敷市の水島工業地帯の夜景をデザインしたものである（写真 2）。その裏面が写真 3 である。遥照山は岡山天体物理観測所設置候補地の一つとして試験観測がおこなわれた標高 405m の山で、瀬戸内海の展望地である。候補地だった頃は、この工業地帯は遠浅の芦原で、空は漆黒の暗い空であった。ところが開所 25 年を経てみると写真のように 100 万ドルの夜景といわれる状況になってしまったのである。天文台誘致も、新産業都市の誘致も同じ岡山県知事三木行治氏の業績となっているが、暗い夜空が必要な天文台と、煌々と明かりをつけ、排気ガスを燃やす精油所、製鉄所などの臨海工業地帯という相反する施設を誘致したのである。



写真2 岡山天体物理観測所 188cm 望遠鏡ドームと遥照山から見た工業地帯

鴨方駅発行

No. 0211

遥照山

瀬戸内観光ルートの一翼を担う遙照山は、古くは蓮嚴寺を中心に山岳仏教が栄えたといわれ、現在もその寺域に慈覚大師の開基と伝えられ、薬師如来と釈迦如来の二仏が一体となった石仏をまつる両面薬師堂がある。

また、ここには、ラジウムを含む鉱泉がわき、遙照山温泉として知られている。そして、この山頂からは、南に四国連山・瀬戸内海国立公園、北に中国山脈が見わたせ、夜には、水島の夜景も楽しめる。

天文台

山陽本線鴨方駅からバス30分。遙照山の西隣竹林寺山頂にあり、東洋一の188cm反射赤道儀望遠鏡・世界一クーデ型65cm太陽望遠鏡などを備え、日本では最高級の天文台の一つ。（昭和35年10月開所）

国鉄・岡山

写真3 写真1の解説文

2枚目は、天文台ドームと天草総合公園をデザインしたものである（写真4）。



写真4 188cm 望遠鏡ドームと天草総合公園

2枚目の切符の裏の説明が写真5である。

鴨方駅発行

No 0211

あまくさ

天草総合公園

鴨方駅から北へ歩いて約5分。公園内には、町民会館・図書館・老人憩いの家・野球場・体育館・武道館・テニスコート・こどもと老人の広場などの施設が完備され、鴨方町の文化・スポーツの中心となっています。

東洋一天文台

正式名称は「東京大学東京天文台岡山天体物理観測所」。標高375mの竹林寺山頂に昭和35年10月に設置された天文台。東洋一188cm反射赤道儀望遠鏡・91cm光電赤道儀望遠鏡・30cm反射望遠鏡・世界一クーデ型65cm太陽望遠鏡がある。

一般見学者のために天文博物館を併設しており、宇宙の神秘を模型やパネルで紹介している。

国鉄・岡山

写真5 2枚目の切符の説明文

3枚目は、188cm望遠鏡ドームと鴨方町名産最上塗をデザインしたものである(写真6)。



写真6 188cm望遠鏡ドームと最上塗

3枚目の切符の説明文が写真7である。3枚3様に岡山天体物理観測所が説明されている。すなわち、1枚目は「天文台」、2枚目は「東洋一天文台」、3枚目は「竹林寺山天文台」であり、説明も工夫がしてありいろいろな情報を分けて書いてある。

その頃、山陽本線鴨方駅の南の田圃の中には「188cm望遠鏡ドーム」と「東洋一天文台」という文字」が書かれた大きな看板が立っていた。そして鴨方名物として「天文最中」という菓子も売り出された。

鴨方町は、昭和30年頃の「昭和の大合併」で鴨方駅のあった「六条院町」とその北隣の町「鴨方町」が合併した町である。鴨方町となったからには六条院より鴨方の方が大きかったのだが、山陽本線の「鴨方駅」は六条院町にあったのである。このような変なことは現在の「新倉敷」駅についても言え、新倉敷は新幹線の駅になる前は「玉島」という駅で

あり、「玉島」は駅がある「長尾町」の南隣りの「玉島町」という港町の名前がつけられた。玉島は港町なので鉄道が通ると港が寂れるという理由で鉄道の通ることに反対し、北隣の町を通しながら「玉島」と名付けたのである。

もがみぬり
最上塗

最上塗は鴨方町宇月原の住人最上隆雄氏の考案によるもの(昭和57年7月特許取得)で、その特色は、木の葉の葉脈のもつ自然の造形美そのままを絵付けして漆面に活写し、金・銀、または優美な色調をもって磨きだすという手法にある。

昭和58年12月から最上塗振興会を発足させ、町をあげてふるさとの伝統工芸品となるよう取り組んでいる。

ちくりんじさん
竹林寺山天文台

「東京大学東京天文台岡山天体物理観測所」という長い名前が正式な名称。山陽本線鴨方駅からバス30分。標高375mの竹林寺山頂にあり、東洋一188cm反射赤道儀望遠鏡・世界一クーデ型65cm太陽望遠鏡などを備えている。

東洋一の反射赤道儀望遠鏡は、ドームの中、ガラスごしに見学できる。

国鉄・岡山

写真7 3枚目の切符の裏の説明文

鴨方町も「平成の大合併」で周辺の金光町、寄島町と一緒に郡の名称であった「浅口市」になった。写真8は記念切符の袋の裏の鴨方町の解説である。

かも がた ちょう
鴨方町

岡山県南西部に位置し、町中央部を東西に山陽本線・国道2号線が走り、山陽自動車道インターチェンジも建設中である。

室町時代には、守護細川氏の鴨山城が築かれていた。江戸時代の1632年に池田光政の所領となり、1672年に鴨方藩が成立。

鴨方は、1925年(大正14)に、六条院は1934年(昭和9)に町制を施行し、1955年(昭和30)に両町が合併して現在の鴨方町となった。

自然環境のよさ、水島、福山への通勤圏内にあることなどから、住宅団地の進出がめざましく人口も増加し、まもなく2万人になろうとしている。

(昭和60年4月現在 19,907人)

特産物に、手延ソーメン、モモ、清酒、天文イチゴ、最上塗などがある。

町花は桃の花、町木は、クロマツ。

写真8 昭和60年(1985年)の鴨方町の解説文

岡山天体物理観測所は、平成22年10月19日に開所50周年を迎える。この記念切符はちょうどその半分のとき発行されたものである。さて、50周年記念には何が発行されるのであろうか。50周年は無いと40周年記念行事が行われたことが記憶に残っている。